

寄稿

地域支え愛事業持続マニュアル

埼玉県ふじみ野市
NPO 法人ふじみ野明るい社会づくりの会
代表理事 北沢紀史夫

1. はじめに

地域支え愛事業は、2010年に開始して12年目になりました。これまでの利用時間数は25万時間を超えています。この経験をもとに、利用を増やす方法、担い手不足解決方法、長く続ける方法、行政との連携方法、新しい支え愛の取り組みについて述べます。

2. 利用を増やす方法

(1) 1時間300円に設定する
利用を増やすには無料にすると一番多く利用されると考えられます。しかし、ただほど高いものはありません。そこで、気兼ねなく頼める1時間300円にしました。料理会・食事をコロナ発生前まで10数年間、毎月、参加費300円で開催しました。会費を徴収していた時、聖徳太子の100円札が含まれていたこともあり、ありったけの生活であることが伺えたので、支え愛センターの利用料金も300円にしました。薄利多売の精神です。昨年度の利用時間数はコロナ禍にもかかわらず1万6698時間でした。

下の表は、埼玉県63市町とふじみ野市との比較です。

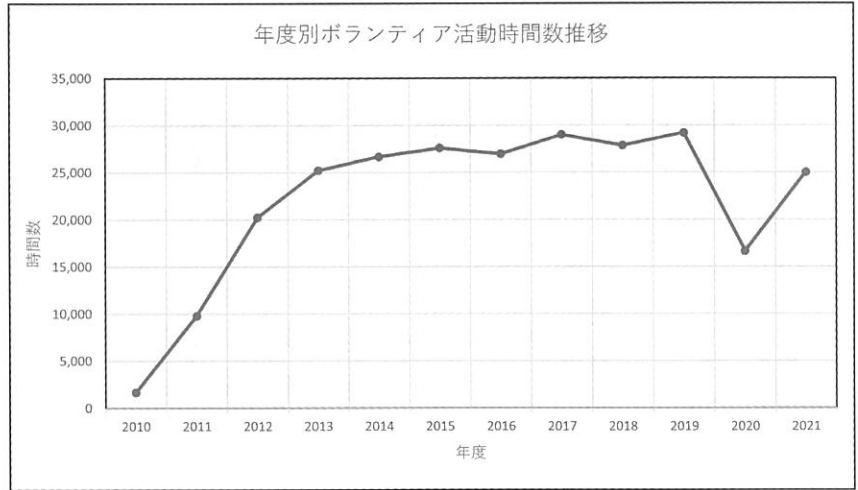
なお、埼玉県63市町の1時間利用料金以外は令和2年度の数値です。

実施機関	埼玉県63市町	ふじみ野市
月平均利用時間	86時間	1,386時間
ボランティア数	80人	100人
1時間利用料金	626円	300円

地域支え愛事業の利用状況

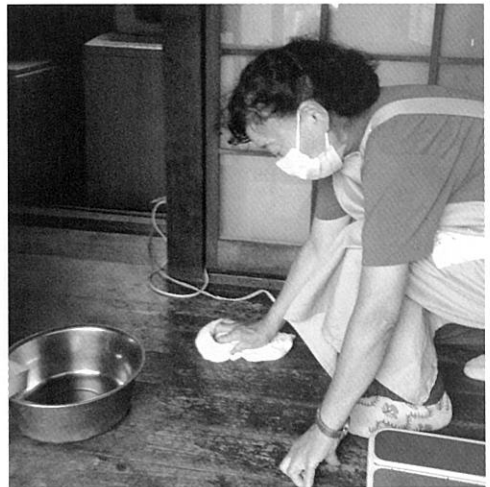


支え愛センター10周年記念式典



年度別ボランティア活動時間数推移

(2)高齢者の困りごとを把握する
 私たちの団体の30周年記念事業を何にするか決めるために、高齢者が大部分を占める会員200人を対象にアンケート調査を実施しました。困っていることを聞いたところ、足が不自由なために病院や役所に行



一人暮らしの家の掃除

けない、部屋や庭の掃除ができない、買い物ができない、といったことでした。

調査を終えて事業を始めようとしていた時に、埼玉県から補助金を出すから「地域支え愛事業」に取り組んで欲しいとの依頼を受けました。願いが叶い奇跡が起きました。埼玉県からの補助金が終了した後は、ふじみ野市から事務所家賃及び経費の補助を受けています。

「地域支え愛事業」の利用内容は、病院への付添7割、部屋と庭の掃除2割、買い物代行1割と、アンケート調査で分かった困りごとと全く同じ結果です。

(3)軸となる合言葉を作る

私たちの合言葉は「あなたのいい顔みた

い」です。

西洋には「まず与えなさい。与えるは受けるより幸い」という言葉があります。同様な話は近江商人の心得にもあります。近江商人の家に生まれた少年は丁稚奉公のために鍋蓋の行商に出されました。何日も売って歩きましたが1個も売れませんでした。疲れ果てた少年は土手で休んでいるとお婆さんが川で使いこなしした鍋蓋を愛おしそうに洗っているのを見ました。少年は、お婆さんが洗っているのを手伝いました。その姿を見た多くの村人は少年から鍋蓋を買ったという話です。

私たちの思いが通じたと思われた経験をしました。ある日、若い父親が5歳前後の息子を連れて支え愛センターに来られました。目が不自由な奥様が、プラットホームから線路に転落し入院してしまったので、息子を自宅近くの保育所まで毎朝付き添って欲しいという依頼でした。

2、3か月付き添った女性ボランティアは、支え愛センターに来て「その子は私を道端のお地藏様に連れてゆき、お姉さんが幸せになるようにと小さな手を合わせてくれました。私の方が、その子のために祈ってあげなければならぬのに逆でした。涙が止まりませんでした」と言いました。

「あなたのいい顔みたい」との思いが幼



大人塾

子にも通じたのでしょうか。胸が詰まる思いをしました。

3. ボランティアの担い手不足の解決方法

新規利用者の増加に対してボランティアの増加が追いつかないこと、支え愛センター設立12年目でボランティアの高齢化が

進んでいることが課題となっています。そこで、以下のことを実施しました。

- (1) 市報での募集・年間3回掲載。
- (2) チラシ作成・公共機関に常時設置。市報に織り込む。民生委員を通じて一人暮らし世帯の5千人に配布。
- (3) 「支え愛だより」の発行・公共機関に常時設置。市内5万世帯にポストイン。
- (4) 利用案内パンフレット・本会の事業案内を作成。

- (5) ボランティア募集説明会の開催。
- (6) 講演会・吉川美代子氏、堀尾正明氏の講演会を開催。600人が集まり、うち60人が取り組みに関心を持つが、最終的に担い手として残るのは2、3名であった。

- (7) 支え愛大人塾・ボランティア精神の啓発を主とした大学教授や実務家の講義。
- (8) コンサート・自衛隊コンサート、東邦音楽大学生及びOBによるコンサートを開催して参加者にボランティアへの登録を呼び掛けました。

4. 長く続ける方法

ボランティア活動をしている理由や、ボランティアをしたことによる心と体の変化などを聞き取り、その回答内容から、長続

きしている原因を調べました。

(1) 調査方法

支え愛センターでボランティアとして活動する男女含め52名にインタビュー調査を行いました。

調査内容は、ボランティア活動に関する20項目を設定し、5分間のインタビューを行いました。

(2) 対象者の概要

- ① 男女比・男性25人、女性27人
- ② ふじみ野市在住歴・平均37年
- ③ 平均活動年数・5年
- ④ ボランティア経験の有無・有11人、無41人。8割が初心者です。
- ⑤ 対象者の平均年齢と年齢別の割合・支え愛センターでボランティアとして活動する者は、70代が最も多く6割でした。
- ⑥ ボランティア活動以前の職業・31名6割が無職でした。
- ⑦ 支え愛センターの活動をどのように知ったか?・講演会・コンサート17名約3割、知人14名、NPO会員11名、市報7名、家族3名、その他1名でした。
- ⑧ 活動内容・調査対象者の活動内容は、病院等の付き添いが18名、事務18名その他36名でした。
- ⑨ 動機・活動参加の動機としては、役に立

ちたいと回答した者が20名でした。

⑩一日の休養等自由時間(支え愛の活動を含む)・趣味7人、家事6人、支え愛センターで活動4人、スポーツ5人、シルバー人材で仕事3人、アルバイト2人、何もしない1人、その他無回答あり。

(3) インタビューでの質問項目と答え

インタビューで質問した項目は、満足度、前後の心理的健康度、前後の健康状態、社会的貢献度、長く続いた理由、自分への誇り、有償ボランティア、薬の服用、生き生きと感じられる時、働く意思の10項目です。

1 ●活動をしたことでの満足感について

①人に喜んでもらえ、嬉しい、ありがとうと言われると元気になる。
②ちょっとしたことができない人が多いのを見ると、自分が動けることがありがたい。

③病人に付き添えることが幸せ。人に対して親切にできるようになった。

④生活のリズムが規則正しくなり、一日を有効に過ごせるようになった。

⑤商品券で米と肉が買え助かっている。

⑥多くの人との出会いで視野が広がった。家族や友人などと違い、また、会社の利害関係・上下関係がなくなり新

しいコミュニティが築けた。

2 ●活動をする前後での心理的な変化について
ストレスが無くなった。

3 ●活動前後の健康面での変化について

各種行事の責任を任せられ健康に気を付けるようになった。以前は年数回風邪を引いていたがこの数年は風邪を引かなくなった。

4 ●社会的貢献について

①支え愛センターの利用が多くふじみ野市の介護保険料が据え置きになった。

②少しは役に立っている、罪滅ぼし。

5 ●活動が10年間続いた理由について

①外的要因…次から次へと新しいことが考えられ取り組んだ。家族の理解がある。年寄りが投げやりにされている。自分が老いた時の体制を若いうちに作らなければならない。

②内的要因…理屈ではない。計算ではない。お金ではない。愛情がある限り続く。利用者の感謝の心が、ボランティアの力になる。

③人的要因…一人の力は大ききことはないが、みんなが協力すると大きな力になり、感謝される。

④組織的要因…需要と供給が合致。高齢化社会におけるリタイヤ組の受け皿に

なっている。一人で籠っていなければ

ならないところ、行く場所とやることがある。1時間300円の利用料金は年金生活者が利用できる限度額。元気づけに他人を支え、弱ったときに自分が支えてもらえるという安心感がある。

6 ●自分への誇りについて

人の役に立っている。

7 ●有償ボランティア

有償といっても報酬ではなく、謝礼である点が、自由にできてよい。

8 ●薬の服用の変化について

薬の量が少なくなった。ボランティアが忙しく薬を飲むのを忘れた。

9 ●生きがいを感じる時について

頼られると力になる。

10 ●働く意思について

利用してもらえらる限りボランティアをやりたい。

5. 行政との連携方法

ふじみ野市の介護保険料は、平成27年度から平成29年度は4650円でした。全国平均は、5514円です。ふじみ野市では、平成30年度からの3年間は、過去と同額の介護保険料の据え置きとなりました。ふじ



ルミエール・ピバンでの寿司作り

み野市は「支え愛センター」を利用する者が25万時間を超え、介護保険の支出削減の一助となったので据え置くことができた」といいます。支え愛センターの活動が潰れては困るからと補助金が交付されることとなりました。

6. 新しい支え愛の取り組み

現職のデイサービスの所長からデイサービスの現状について、「安全性や経営効率を求めるあまり通所者のメニューが画一的になり結果的に自立性を妨げて、元気な人も病気にしている」という悩みを聞いていました。そこで、自由に伸び伸びできるデイサービスの必要性を感じていた時に、大学生から「人生百年時代を迎えると、介護保険制度では支えきれないので世代間交流で支えたい」と申し込まれました。

そこで、若者と交流しながら一日を楽しく過ごせるデイサービスの参加型の事業「ルミエール・ピバン」を始めました。目的は、高齢者が自分で考え、できることは自分でする、従来のデイサービスのような拘束から解放されることです。

一人暮らしの高齢者は「皆と一緒にご飯を食べて、遊んで楽しかった」と喜び、共に遊んだ学生は「回を重ねるごとに元気になり、進歩するのですね」と喜びます。

学生から活動報告を聞いた文京学院大学の理事長は「欧米の資本主義は、神と人の関係で成り立っている。日本の資本主義はお互い様、支え合いで成り立っている。君たちは気づいているかどうか分からない

が、本質的なことをやっている。渋沢栄一の合本主義の考えに、人の支え合いによる資本主義が良く現れている」と言われました。文京学院大学は、「ルミエール・ピバン」への参加学生に「単位」を与えました。

7. まとめ

団体が事業を始めるときにはまず収入と支出を考えます。ところが、利用者が居なければ事業は成り立ちません。

当会は、利用されることのみを考えて始めました。すると、最初の3年間は埼玉県が、その後はふじみ野市が補助してくれています。私たちのような1時間250円の謝礼での共助。行政による家賃の負担での公助、利用者は1時間300円の負担という自助で長く続いています。

コロナ禍でも、休むことなく活動しています。コロナは、忘れられかけていた「まず与えなさい。与えることは受けるより辛い」ということを知らしめてくれました。ボランティアは、喜ばれて癪になり、自身の健康な自立期間を長くし認知症予防になると思います。「あなたのいい顔みたい」は、パッピーホルモンが出て、健康で長生きできます。ボランティアは百薬の長と思います。人生において最後に残るのは、人に与えたものだけです。